

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

平成30年度 上市高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	教科指導の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・授業検討会を適宜実施して、生活実態調査結果の分析などを通して、生徒理解を深めるとともに、教科の指導法や評価法等を研究している。 ・各教科で学習の内容、方法、評価の仕方等を記載したシラバスを生徒に配布している。しかし、生徒は分野・科目選択の資料として利用しているが、学習設計の指針として、十分に活用するに至っていない。 	
達成目標	積極的に互見授業を行い、授業改善の充実を図る。	各教科 100%以上
	1学期と2学期に互見授業期間(2週間)を設定し、各学期1人2回以上の互見授業を行う。その後各教科で授業検討会を実施し研修する。	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導力の改善を目指す授業検討会を開き、効果的な指導法や生徒の学習成果を測る評価法を研究する。(継続) ・「主体的・対話的で深い学び」いわゆるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を充実させる。 ・教科指導はシラバスに基づき実施する。その際に、授業と家庭学習(課題や宿題の質と量に配慮)の内容を明確に位置づける。 ・授業に対する生徒アンケートを分析して、教科指導法の工夫に役立てる。 	

平成30年度 上市高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活	
重点課題	基本的な生活習慣の確立 学校生活および社会生活への適応	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・「基本的な生活習慣の自己管理」「身なりを正す」「マナーを守り公共心を身につける」等を指導重点として規律と秩序ある校風作りを進めている。 ・毎朝、通学駅や玄関前での挨拶や服装指導を行っているが、コミュニケーションをとることが苦手な生徒や制服を着崩している生徒も見られ、根気強い指導が必要である。 ・携帯電話・スマートフォンの使用違反者数は、年間延べ数で H29 年度は303件と H28 年度より90件増加している。違反を見逃さない教員の指導のあり方を確認し、保護者をまき込んだ指導のルールを強化しながら校内での取り扱いを徹底している。また、ネットパトロール指導は、激減しているものの重大犯罪に関わることもあることから引き続き指導が必要である。 	
達成目標	①定期頭髪服装指導に向けて、生徒の意識改善を促す指導の充実	②携帯スマートフォンの使用ルール違反者(校内の使用やネットパトロール指導の減少)
	再指導生徒10%未満	前年比20%の減少(件数)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に生徒・保護者へ指導日を連絡し、家庭での協力を依頼する。計画的に頭髪服装の自己管理が出来るように生徒の意識改善を促す。 ・毎朝、挨拶を交わしながら生徒とのコミュニケーションをとり服装指導を行う。 ・進路指導と絡めて、社会人としての在り方を考えさせることにより、生徒自身の自覚を促す。 	

平成30年度 上市高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援		
重点課題	生徒の主体性を引き出すための情報提供と進路指導		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 進路を決めかねている生徒や、明確な進路目標を持っていても自主的な学習行動に至らない生徒が見られる。 県内外進路研修、進路体験講座など多くの進路学習が行われているが、生徒は受動的であり、個々の活動を系統的に生かし、進路意識を高めていくことが苦手である。 		
達成目標	①外部模擬試験や校内課題テスト等の結果を精査し各学年で進路検討会を実施し、個々の進路指導に反映させる。	②学年末までに2年次生徒全員の進路目標を決定させる。	③生徒の進路希望の実現
	生徒個々の適性や目標を明確にし、より良い進路指導を行うため、検討会を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 進学希望者は具体的な学校名が挙がる。 就職希望者は就職への意識が固まる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進学希望生徒 第一志望校合格率 80%以上 就職希望生徒 就職内定率 100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 進路体験講座などでの上級学校の講義を通じて、将来像の姿をイメージさせる。 「県内外進路研修」や「インターンシップ」、「卒業生に聴く会」を通じて上級学校や職場の雰囲気に触れさせ、自己理解の深化と進路・職業意識の向上を図る。 生徒の多様な進路希望に対応するため、入試動向や求人状況の研究を深め、基礎学力の定着や資格取得ができるように面接指導の充実を図る。 特別授業や補習を綿密に計画し、個々の生徒の目標達成に必要な基礎学力の向上を図る。 外部模擬試験や校内課題テスト等の成績データを精査し、各学年検討会を実施することで、分野選択の指導や教科指導、過去の成績と可否との相関関係から進学指導（特に大学や看護学校）に活用する。 		

平成30年度 上市高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動		
重点課題	部活動やボランティア活動、異年齢交流を通しての学校生活の充実		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 校内外の行事に対して生徒会執行部は活発だが、一般生徒の意識はそれほど高くない。 平成29年度は、校内行事に87%の生徒が主体的に参加できたと答えていた。 平成29年度はボランティアサポーター登録数65名、参加延べ人数145名が校外ボランティアに参加し充実感を得ている。しかし、3年間に一度も参加しないなど活動意欲が不十分な生徒も見受けられる。 部登録はしているが活動していない生徒や、安易に退部する生徒も多く見られる。継続して部活動を続けている生徒は、全体の64%である。 		
達成目標	①ボランティア等の校外活動の参加数	② 部活動に積極的に活動している生徒の割合	
	延べ人数 200名以上	50%以上 (12月にアンケート実施)	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会及び各種委員会と連携を図りながら、活動の輪をひろげる。 地域交流や校内外でのボランティア活動、クリーン活動、家庭クラブ活動に対する広報活動を活発にし、参加していることへの自覚を深める。 部活動の必要性や魅力を知らせ、体力や技術、意識の向上とともに、人間的な成長と個性の伸長を実感させ、学校生活の充実を図る。 部長会議を各学期2回実施し、状況把握を行うとともに、必要な対策を行う。 		